

ITCみやぎ様との交流会

昨年10月9日(土)に、ITC中部より7名が仙台に入り、ITCみやぎ様と交流してまいりました。会場は(株)東日本ソリューションズさま6階の会議室。

ITCみやぎ様は毎年この時期にSAAJ東北さま、JISTA東北さまと合同で2日に亘る勉強会(ワークショップ)を実施されており、今回も60人のメンバーが参加されていました。

我々もそこに参加する形で、池山さんが「明治政府の戦略マップ」、小笠原さんが「iPhoneとAR(拡張現実)」と題して、講師として熱弁をふるいました。

また、「クラウドサービスと情報システム監査」について日本セキュリ

ティ監査協会事務局長の永宮さま、「秋田県の事例にみるIT改革と今後の方向性」については秋田県IT改革推進室伊藤さまより有意義なお話を聞くことができました。

そのあと近くの居酒屋さんに場所を変えて、それぞれ自己紹介したのち、講演の感想や、日ごろITCとして感じていることなど、和気あいの雰囲気の中で語り合いました。

毎回のことではありますが、ITコーディネータという資格は一緒でもそれぞれの地域の事情の違いから、課題や問題意識も違い、その違いを理解しあうことが交流会の意義あるところとあらためて感じた次第です。(ITC中部広報委員長 森田 正博)



「仙台で熱弁をふるうITC中部の小笠原さん(左)と池山さん(右)」

第32回日本生産管理学会全国大会へ参加



平成22年9月11日(土)名城大学にて開催された'第32回 日本生産管理学会全国大会'に学会のご好意で、ITC中部より自主勉強会の一環として参加させて頂きました。希望者を募ったところ大変好評で、可能最大の30名の方が参加され、その受講した講演は下記の通りでした。

・大会の統一論題:「ものづくりの連携と国際化」

①記念講演:「海外でのものづくり」

加藤太郎氏 日本ガイシ株式会社 代表取締役副社長

②特別講演(1):「ものづくりと社会学融合教育」

大道武生氏 名城大学 理工学部機械システム工学科教授

③特別講演(2):「環境規格を巡り激化する国際競争の実態と勝者の戦略」

市川 芳明氏 (株)日立製作所 地球環境戦略室 部長

④基調講演:「トヨタ生産システムの視点からみた会計の基本的問題点と解決策をめぐって」

河田 信氏 名城大学 経営学部教授

今後も日本生産管理学会とは、ITCとしての技術や見識を高める良き機会として、さらに連携を深めて行きたいと考えています。

(ITC中部 和澤 功)

※写真は特別講演の講師 大道武生教授(名城大学理工学部機械システム工学科)の紹介したロボットの1つ

事務局だより

1. 年会費の納付のお願い

23年度が始まります!!

23年度の年会費(5,000円)を下記銀行口座にお振込みをお願いいたします。

<振込先>

銀行名:三菱東京UFJ銀行 金山支店

口座:普通、1090276

口座名:トクテイエイリカツドウホウジンアイ

尚、会社名義でお振込みの場合には、お手数かけますが会社名と振込者名を事務局まで、ご連絡をお願いいたします。

2. 事務局員の募集

4月から新たな年度が始まります。そこで、事務局のお手伝いをお願いできる方を募集いたします。お仕事は、主として、ITC中部の会員管理です。特に、新しくITC中部に入会され、他のITCの方々とお知り合いになられた方にぴったりです。詳細は事務局までご連絡をお願いいたします。

3. パンフレット、広報誌配布のお願い

今回は、初めて広報誌を電子化いたしました。ITC中部のパンフレットや広報誌「架け橋」を、ITコーディネータの知名度アップや、ITC中部への入会のお誘いなどに活用ください。ITC中部のHPからダウンロード出来ます。

ITC中部 事務局連絡先 info@itc-chubu.com

(ITC中部事務局 伊藤実)

NPO・ITC中部広報誌第16号 平成23年3月31日 発行

発行:NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山5丁目11-6(NSC内))

発行責任者:NPO・ITC中部 理事長 矢口 隆明 編集責任者:NPO・ITC中部 広報委員長 森田 正博

ホームページ(<http://www.itc-chubu.jp/>)

NPO・ITC中部 広報誌

Vol.16

架け橋

特定非営利活動法人

ITC中部

<http://www.itc-chubu.jp/>

ユーザー企業IT特集



目次

ITCなんて

もういらない!?

1

企業内ITCとしての活動状況

2

大東亜窯業株式会社様工場見学会

2

iPhoneプロジェクト紹介

3

情報化サミット2011

3

ITCみやぎ様との交流会

4

第32回日本生産管理学会全国大会へ参加

4

事務局だより

4

ITCなんてもういらない!?

2011年度初めの機関紙巻頭言の大役を仰せつかり光栄に存じます。今回、ユーザー企業内ITコーディネータ特集ということで、大企業内での体験、取引先など中小企業様との関わりの中で、個人的に、最近感じていることを述べさせていただきます。

私は、社内の情報化推進担当として2001年にITコーディネータ資格を取得しました。当時は振り返りますと、ERP、オープンソース、分散ネットワークなどが新しい潮流であり、インターネットも国内での本格的な普及が始まった時期でした。ITの戦略的活用が大きく叫ばれ、組織のフラット化、ITリテラシーの向上が重要な経営課題とされた時代でした。

それから10年、大企業では状況は大きく変わったように思います。ERPの導入は完了し、レガシーシステムの問題は落ち着きました。社内ネットワークが整備され、電子メール、スケジューラ、ワークフローなどグループウェアや、データウェアハウスの整備により、社内の情報活用度は大きく飛躍しました。それに伴い、個人情報、社内機密漏洩、ウイルス、ハッキングなどセキュリティ問題が顕在化し、対応を余儀なくされましたが、なんとかその脅威をかわしてきました。

このような変化の中で、社内メンバーはボトムアップ的にITを業務の中に取り入れ、その活用を促進していきました。今では、当社では「ITリテラシー」という言葉は「死語」になりつつあるようです。ITリテラシーが不要になったということではなく、あえてそんなことを言わなくても、「読み書き算盤」のごとく当たり前の能力となったのだと思います。無礼を恐れず言いますと、10年前、自分で電子メールを発信する部長級以上の幹部は少数派でしたが、今では電子メールを使えない幹部などいません。現在ではITによる業務合理化起案者は業務担当部門であり、情報化推進という特別な担当役割では無くなっています。極言すれば、当社では専門職としてのITコーディネータは不要になっていると思います。社内的に明確な指針などはありませんが、全員が自然とITコーディネータ的な役割を果たしてきている、RFPを作成するのは全員という感じです。

そのような状況下で、当然、ITは業務に不可欠なものとなっています。ただし、経営戦略的重点課題として挙げるものでは無くなっていることも事実です。無くては仕事ができないが、普段あえて存在を意識することのない空気や水のような重要な基盤になっていると思います。

一方、お取引先としてのお付き合いやさまざまな事例報告で知ることのできる中小企業を見て感じることは、一部の先進事例で紹介される企業などを除けば、ITの活用度合いにおいて大企業との間の格差は以前にも増して拡大しているということです。確かに



ITC中部広報委員 吉田信人氏

PCはほとんどの企業で導入されました。EDIによる取引も普及し、ホームページの開設も進みました。しかしどれだけその企業の経営に貢献できているでしょうか。ある企業ではCOBOLのソフト資産を更新できず、今もデータ変換やダブルインプットの呪縛から逃れられていません。担当者は信頼し難いベンダー以外に相談相手もなく孤独にブラックボックス化したシステム保守に追われているのではないのでしょうか。EDIも取引先親会社からの要請によるもので、系列により互換性がなく、冗長なものになってはいないのでしょうか。ホームページは開設したもののどれだけのアクセス数があるのでしょうか。

少し古いデータですが、2008年度版中小企業白書では、大企業と中小企業の間において、総収入額比IT費用支出額割合にそれほど差はないものの、ソフトウェア資産残高に大きな格差が見られるという報告があります。これは、ITハードは導入したが、その有効な活用が十分ではないことを裏付けたものとも言えます。言い古された言葉ですが「ITはソフト無ければただのハコ」です。

大企業に比べ、予算的にも人的にも経営資源に乏しいという制約のある中小企業です。世代交代も進みにくく、旧来の価値観から脱却しにくいという中小企業も多いと思います。大企業においては、ITコーディネータは不要になったかもしれません。しかし、中小企業においては、その役割と期待はますます重要になっているのではないのでしょうか。未だに多くの中小企業の経営者陣は旧来の価値観に縛られ、飛躍できずにいるのではないのでしょうか。人的制約の中で中小企業のIT担当者は孤独ではないのでしょうか。取引先からの要請により止む無く導入したEDI、時流だからと開設したホームページ等々、もし、ITがお荷物となっているとしたら... ITコーディネータの出番はまだあるのではないのでしょうか。(ITC中部 広報委員 吉田信人)

企業内ITCとしての活動状況

私が勤務しておりますタック株式会社は親会社であるイビデン株式会社の電算室を母体に1976年に設立されました。本社のある大垣市を拠点に主な事業としてイビデングループ及びヘルスケア業界向けのシステム開発をしているシステムインテグレーターです。私は10年ほどプロセスコンピューター系のシステム会社でソフトウェアの設計開発に従事し8年ほど前から現在の会社でSEとして勤務しております。

以前の会社では大手メーカーの下で、既に使用するハードウェアやミドルウェアなど決まったフィールドでの開発が中心であり、接する顧客もメーカーの技術担当者が中心だったのですが、現在の会社ではエンドユーザーと接することも多く、要件定義から開発さらに運用支援に至るまでより幅広い範囲が対象になりました。ITCになって5年目に入りましたが、数年前に実施した顧客に対するシステム提案ではITCプロセスの経営戦略、IT戦略策定の知識が非常に役立ちました。

システム開発プロジェクトの大半が失敗に終わっているというのが我々IT業界の常識になっておりますが、いくらプロジェクトマネジメントを上手く実施出来たとしても、肝心のシステム導入の目的が経営戦略・課題と整合していなければ失敗であり、多くの失敗プロジェクトの原因の1つになっているのではないのでしょうか。最近、クラウドコンピューティングやスマートフォンが話題になっており、セミナーやシンポジウムなどでも、どうビジネスに使うか、どのような話も多いですが、これらは単に道具の1つに過ぎず、ユーザー企業が現在どのような課題を抱えているのか？ それに対して本当に効果的なITソリューションは何なのか？ を基本的な考え方として今後も活動していきたいです。

最後にITC中部に対する期待として、やはり我々のようなIT企業のSEの立場では、なかなか経営戦略策定やIT戦略策定という超上流工程を経験する機会が少ないのが現状です。可能であれば、例えば先輩ITCに同行させていただきなど、これら超上流工程の経験を積む機会をより多く用意していただけないものかと思えます。

(ITC中部 藤澤 宏泰)



タック株式会社 本社



IBIDEN&TAKソリューションプラザ

大東亜窯業株式会社様（土岐市）工場見学会

9月3日の土曜日。今回の企業訪問先は、ITを経営革新に積極的に活用され、中部IT経営力大賞2009にて優秀賞を受賞されているIT経営実践認定企業、土岐市の大東亜窯業株式会社様を選ばせて頂き、その窯業工場の見学会を実施致しました。

今夏は100年に一度の猛暑に見舞われました。その暑い最中に、さらに熱い灼熱の窯が横たわる広大な工場の見学会です。参加者全員がタオルを片手に、汗を拭きながらの現場見学となりましたが、普段目にする機会が殆ど無い、貴重な陶器の製造現場を視察することができました。

大東亜窯業様は、昭和26年創業以来、美濃焼の家庭用の和食器や和食店向けの高級陶器を製造・販売されている会社です。常に多品種・少量・短期生産へ挑戦されており、従業員140名にて、日産で約6万ピースの規模を誇り、主要取引先は産地間屋を中心として千数百社に及んでいます。

しかしながら、他産業と同様に、海外からの安価な陶器の輸入増により、効率化と差別化が求められています。

効率化対策の観点では、ITの利活用に着目され、数年計画で幹部社員の意識改革から着手。今は着々と効率化を図られている様子でした。

差別化対策の観点では、工業試験場と技術提携。美濃焼の新しいイメージと新市場開拓を目指した製品として「軽量強化磁器食器」を研究。特殊な原料と焼成技術によって、普通磁器食器の約3倍の素材強度を実現することに成功。さらに軽量化も実現。

現在、割れにくく、軽量で高級感のある陶器を新開発でき、それを学校給食や老人ホームなどの新市場へ売り込み中とのことでした。



大東亜窯業様との意見交換会

最後は、社長を交えた意見交換会となり、活発な意見交換が交わされ、真剣な話し合いの場と化しました。今回の自主勉強会の開催に当り、見学会をご依頼頂いた和澤様様に末筆ながらお礼を申し上げます。

(ITC中部 岡部 勝彦)

iPhoneプロジェクト紹介

最近のスマートフォンの普及は目を見張るものがあります。私は昨年の夏からiPhone4を使っていますが、使い始めたらその面白いこと、今では決して手放せないものとなりました。電話機能以上にITデバイスとして十分に役立ちます。

ITC中部では一昨年「iPhoneプロジェクト」を立ち上げ、iPhoneのビジネス活用について研究しています。昨年は2つの大きなテーマに取り組みました。

1つ目はセカイカメラを用いた「日本モンキーパーク・デジタルガイド実証実験」です。セカイカメラとは、現実世界のリアルな写真にデジタルコンテンツを重ね合わせるというAR(拡張現実)技術を用いたiPhoneアプリです。

モンキーパークは日本では他に例を見ないほど多種の猿を保有する特徴ある動物園です。しかし、昨今集客力の低迷に悩んでおられました。プロジェクトはセカイカメラを使って実像(写真映像)にデジタルコンテンツ(猿のガイド映像や音声案内)を加えることで「顧客満足度向上」「集客力向上」の効果が生まれるか実験しました。デジタルコンテンツはメンバーが何度も動物園を訪れ、職員さんと共同で作成しました。

コンテンツ完成後、ITC中部会員が来園者の視点でセカイカメラを使って効果を検証したところ、この方法はたいへん効果的であることが分かりました。今後は更に内容を充実させ、ビジネスモデルとして仕立て上げることが課題であると認識しています。

2つ目は「iPhoneフェスタ2010」です。これはiPhoneプロジェクトの活動紹介のほか、iPhoneビジネス先駆者の講演やiPhoneアプリ発表など内容盛りだくさんのセミナーでした。満席の会場は、最前線の業界動向や、次々と披露されるアプリの実演、新規iPhone関連ビジネスを開拓された講師の体験談に興味津々で、まさに盛会そのものでした。



「日本モンキーパーク・デジタルガイド実証実験」の様子



「iPhoneフェスタ2010」会場風景

iPhoneプロジェクトは今後「スマートフォン・プロジェクト」に名称変更し、更に広く深く新たなビジネス活用の研究に取り組みます。必ずビジネスチャンス獲得の支援に結びつく活動となるであろうと期待しています。

(ITC中部 小笠原 直樹)

情報化サミット2011

平成23年2月22日ウイング愛知にて「IT経営カンファレンス2011 in NAGOYA」と「情報化サミット2011」が開催されました。今回は、午前中にITコーディネータ協会主催、ITC中部・ITコーディネータ岐阜・三重ITコーディネータの会・石川県情報化支援協会・ITコーディネータ富山共催の「IT経営カンファレンス」(参加者数105名)午後中部経済産業局と中部地域イノベーションパートナーシップ主催の「情報化サミット2011」(参加者数250名)そして夕方にはITC中部主催の「中部IT経営力大賞受賞企業懇親会」(参加者数43名)の3部構成で盛大に開催されました。

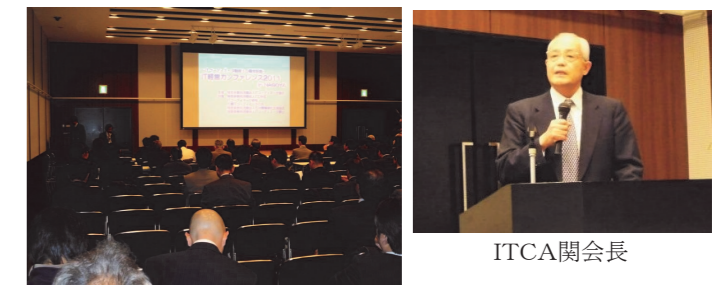
「IT経営カンファレンス」では、今回は特にITコーディネータ制度10周年を記念してITコーディネータ協会副会長の基調講演「IT利活用のパラダイムシフトを活かしたITC活動 ～ITC制度創設10周年を機に～」では、クラウドコンピューティングやアジャイル開発の普及などによるITCのビジネスチャンスの拡大やIT利活用のパラダイムシフトへの対応など、示唆に富んだ内容でした。また、東京IT経営センター田中社長の講演では「今こそIT活用で企業力強化支援を一立ち上げられ全国のITコーディネータ」と題して、新しいITCビジネスの構築を目指した提案がなされ、参加した企業経営者やITコーディネータの活動の大きな刺激を与えるものとなりました。

午後の「情報化サミット2011」では、基調講演でNRI城田氏の「クラウドの現状と今後の展望・最新動向から考える活用に向けた現実解」でクラウドの現状と今後の活用について多くの情報を得ることができました。続いて中部IT経営力大賞の表彰式で11社が表彰され、このうち3社によってIT経営実践事例の発表がありました。これは極めて参考になりました。やっぱりIT経営は事例をよく聞くに限ります！

今回の開催にあたり、「情報サミット2011プロジェクト」が設置され、各県から15名のITCが都合6回の互るプロジェクト会議の開催と当日の運営・運営支援にボランティアで当たりました。今回の成



「情報サミット2011プロジェクト」の皆様(左下が筆者)



ITCA副会長

「IT経営カンファレンス2011 in NAGOYA」会場風景

功はこうした方々の志と努力の賜物と深く感謝いたします。「継続は力」です。来年度以降もITコーディネータが産業社会に貢献するための重要なイベントと位置付け継続して開催しましょう！皆様のご協力をお願い申し上げます。

(ITC中部 副理事長 水口和美)